

社会で輝く青き星 11

「ファイターズの誇りを胸に」

株式会社ユカシカド 代表取締役 CEO
美濃部 慎也



Profile

美濃部慎也(みの・べしんや)／仁川学院高等学校で3年間フットボール部に所属し、FIGHTERSでは4年間WR。2006年株式会社リクルート(現 株式会社リクルートホールディングス)に入社、求人の営業・企画を経て2010年よりオイシックス株式会社(現 オイシックス・ラ大地株式会社)に転向し、事業企画。2013年、株式会社ユカシカドを創業、代表取締役CEOに就任、現在に至る。

2013年3月「努力できる才能を持っている人が強くなれる世界をつくる」というミッションを掲げ、ユカシカドという会社をスタートさせました。

ユカシカドは、栄養改善に特化したスタートアップ企業(株式による資金調達を行い、短期的な急成長を期待される企業)で、科学的根拠に基づいて一人ひとりに適した栄養を提供する「Personalized Nutrition」(栄養の個別最適化)を展開しています。

小学生の頃からの夢舞台であったファイターズ。夢の4年間の終わりは3月6日24時間フットボール漬けだった日々との別れと共にぼつかり心に大きな穴が開いた状態になりました。そんな私を見兼ねてか、前島宗甫先生(元副部長)は、フィリピンのネグロス島を見に行く事を勧めてくれました。

ネグロス島は、砂糖の一大産地であり砂糖産業で経済が支えられています。1985年砂糖価格の暴落により、ネグロス島は飢餓と貧困に見舞われ、2004年に私が訪れた時も貧しい暮らしをしている方々が多くいました。

「将来の夢は歌手になりたいの」。目を輝かせて夢を語ってくれた女の子。しかし、夢を叶えるにはあまりにも過酷な環境がそこにはあり、平等に機会を提供してくれる日本とは全く異なる世界でした。「この環境を誰かが変えないといけない。誰もやれないなら自分がやろう」と直感的に使命感が芽生え帰国。

帰国後、大学の図書館で貧困に関する書籍を読み漁る中で、目にとまったのが「ミレニアム開発目標」(2000年の国連サミットで合意されたSDGsの前身となる国際社会の共通目標)。途上国の栄養不良の割合を下げる目標が掲げられており、先進国の資金や技術が開発途上国に使われていく事を予見し、一過性のボランティアでなくビジネスとして持続可能な仕組みで支援できる可能性を感じました。

一方、栄養領域においては栄養価の高い製品を届けることが重要だとされていたのですが、実際現地を見回すと安価で栄養価の高い食材が流通していることに気づきました。しかしその製品を選ばず、脂質の高いお菓子や砂糖だらけの飲料を好んで飲んでしまう習慣などがあることが分かり、正しい知識の醸成と栄養状態可視化のツールが必要だと感じました。

すぐにでも行動に移したい衝動に駆られたのですが、社会的インパクトを出すためには組織(会社)や仕組み作り、革新的なプロダクトが必要だと感じ事業経験を積むために起業家輩出企業と言われていた株式会社リクルートに入社しました。会社員になっても時

う非常にシンプルなものです。そこで最も重要になってくるのがWill。つまり「ほんで、お前はどれくらいねん」という目的思考になります。

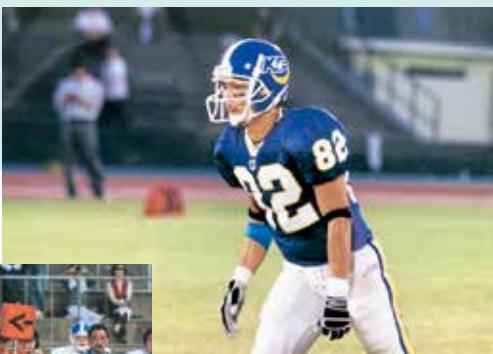
正しいPRIDEは一生の支えになる

将来の予測が困難なVUCA (Volatility: 変動性、Uncertainty: 不確実性、Complexity: 複雑性、Ambiguity: 曖昧性) 時代を象徴するかのよう出現してきた新型コロナウィルス。世界では類を見ない変革が様々なシーンで巻き起こっています。非連続な成長を生み出せるかを期待される中で重要な資質の一つにレジリエンス(困難を乗り越える力)があり、この資質を高めるために重要なことは成功体験です。ファイターズの4年間を走りきったならば、数多くの失敗と共にいくつもの成功体験を積み重ねていると思います。引退試合の際にオフェンスコーチの小野さん(現「ディレクター」)からいただいた言葉「ファイターズの一員であったことを堂々と誇って生きなさい」を胸に、ファイターズのOBとしてどんな困難にも越えていけると確信しながら突き進んでいます。

現役のみなさん、毎年多くの感動と勇気を届けてくださりありがとうございます。ファイターズで過ごした時間が生涯の誇りとなるかは、今を大切に全力で挑むことでしか得る事ができません。後悔なく学生生活をやりきれることを心より願っています。



©株式会社前澤フアンド



イズに特化した自社工場も完成し、国内外の栄養課題解決に向けて少しずつ前進しています。

ファイターズを卒業してから18年経過していますが、4年間の学びは経営の至るところで活かしているのです、その一部をご紹介します。

当たり前前を当たり前前に

例えば、投資家などにピッチ(短いプレゼンテーション)を行うことが多いのですが、フットボールの試合と同じく事前準備の時点で勝ち負けの90%以上は決まっています。少

Purpose-Driven

ファイターズには人生を豊かにする大切なスタンスが自然と身に付く土俵があると思っており、それは鳥内さん(前監督)の「ほんで、お前はどれくらいねん」に込められていると思っています。「練習の最初の5分は何をするか。何のためにするか」「相手の動きにどのようにアジャストするか」グラウンドに降りる前から始まり、グラウンド内でも常に目的を明確に求められます。生活する中でも大小様々な判断が必要になってきますが、社会に出れば更に複雑な課題の解決が求められます。その際に課題解決能力が重要になってきますが、それは「As is」→「To be+Will」のギャップを埋めることさえできればいいとい